

情報処理基礎講座

『コンピュータシステムの基礎 第6版』

正誤情報・補足情報

本書において編集上の誤りがありましたので、お詫びして下記のとおり訂正させていただきます。
また、補足情報を併せて掲載させていただきます。

対象版刷【第1刷／第2刷】共通

該当箇所		誤 (赤字) or 変更前	正 (青字) or 変更後
p.15	囲み枠 例 1) 最下行	よって、1541 ₍₁₀₎ は ゾーン10進数 では～	よって、1541 ₍₁₀₎ は パック10進数 では～
	囲み枠(1)	<p>誤</p> <p>0 1 15 ← ビット位置 0 0 0 0 0 0 0 1 1 0 1 1 0 1 0 ▲ 小数点の位置</p> <p>正</p> <p>0 1 15 ← ビット位置 0 0 0 0 0 0 0 0 1 1 0 1 1 0 1 0 ▲ 小数点の位置</p>	
p.19	囲み枠(2)	<p>誤</p> <p>0 1 15 0 0 1 1 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 ▲ 小数点の位置</p> <p>正</p> <p>0 1 15 0 0 1 1 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 ▲ 小数点の位置</p>	
p.73	囲み枠・上 最下行	3 2 = 2 ⁶ なので、 <u>r=6</u> となる。	3 2 = 2 ⁵ なので、 <u>r=5</u> となる。
p.83	囲み枠・ 1行目	事象 P が発生する確率がP(E)の時、～	事象 E が発生する確率がP(E)の時、～
p.161	全体 6～7行目	割り込み 大別すると 内部割り込み と 外部割り込み の2つに大別できる。	割り込み 内部割り込み と 外部割り込み の2つに大別できる。
p.181	(3) 項番	(3) 入出力制御の方式	(2) 入出力制御の方式
p.182	(4) 項番	(4) デバイスドライバ	(3) デバイスドライバ
p.189	最下行	…印字を 被 衝撃的方法によって行う。	…印字を 非 衝撃的方法によって行う。
p.206	下9行目	～プログラムをサーバ を 用意します。	～プログラムをサーバ に 用意します。
p.214	下7～6行目	結果を 比較照合 しながら処理を進めるシステムである。	結果を 比較照合 (クロスチェック) しながら処理を進めるシステムである。
p.223	(a)の説明文	システムの一部が故障してもシステム全体は ダウンせず 、性能は低下するが、 ある程度の処理は遂行できるシステム のことである。	システムの一部が故障してもシステム全体は ダウンしないシステム のことである。また、システムの一部が故障しても、サービスのレベルを低下させて継続維持 (縮退運転) することを フォールバック と呼ぶ。

該当箇所		誤 (赤字) or 変更前	正 (青字) or 変更後
p.228	囲み枠 MTBF	MTBF = 正常動作している総時間 ÷ 稼働回数	MTBF = 正常動作している総時間 ÷ 故障回数
p.230	4 行目	～初期故障などが発生する区間で、	～初期故障などが発生する区間 (初期故障) で、
	5～6 行目	～安定した稼働が行われる区間で、	～安定した稼働が行われる区間 (偶発故障) で、
	6～7 行目	～故障が増加することになる区間である。	～故障が増加することになる区間 (摩耗故障) である。
p.233	8 行目	ダイオードな電子素子と呼ばれる～	ダイオードなどの電子素子と呼ばれる～
p.300	3～4 行目	格納する作業ことをロードという。	格納する作業のことをロードという。

(2019.09.05/2120-2s-4)

以上